



— 教えて！デバガメ先生 —
第2回 雪ウオッチング



雪が降りつづく今頃、ひょっとと晴れ間が広がり光のさすことがあります。こんなとき、ぜひ外を歩いてみてください。

みどころは屋根からの雪、電線の着雪、庭木や杉の枝の着雪などです。屋根の雪は、すべりおちる前にパン生地のように内側に巻き込んでいませんか。電線には雪がついて蛇のようにならなっていますか。木の枝にたわわに降り積もった雪が鏡もちのようになっていますか。川につきでた石の上に、雪が積もっておまんじゅう型になっていませんか。

これらは、湿度が高く、無風の気象状況で、ねばり気の多い雪によってできる現象です。どれもこれも風変りで愛嬌があって、思わず立ち止まって、下がって見たり、近づいて眺めてみたりしています。よそから見た人は挙動不審と思うに違いありませんが、青空をバックに純白の雪とのコントラストはたまりません。

春が近くなると、なだれがあちこちで見られます。雪底の土砂を巻き込んだ荒々しいものや、クラック(亀裂)が入ってゆっくりと下に落ちるグライドといわれるなだれも見られます。

これらが列状の松曾根をつくり、なだれ植生をつくるもとになっているのだなと感じ入ります。このころ、雪のかたまりが斜面をころがって、バームクーヘンのようなになる、ゆきまくりというものが見られます。ほんの数センチのものから数十センチのものまで多彩です。緩斜面では、木の幹のまわりがぽっかり開いています。木からの輻射熱によってできた根開きという現象です。



雪掘りで忙しいなんていわないで、雪ウオッチングで楽しむくらいの余裕がほしいですね。

(ゆきまくり／撮影・勇)

(勇)

ハクチョウは野鳥です

日本に飛来するハクチョウは、年々増え続け、国内で 15000 羽が越冬するといわれています。オオハクチョウとコハクチョウの 2 種類がいて、コハクチョウの数のほうが圧倒的に多いようです。オオハクチョウはシベリア大陸、コハクチョウは 6000 キロかなたの北極圏から飛んできます。猪苗代湖や阿武隈川で見られるほとんどはコハクチョウです。わが只見町にもハクチョウが来るようになって今年で 22 年目となります。オオハクチョウとコハクチョウがいますが、多いのはコハクチョウです。飛来するきっかけは塩沢の岩淵義寿さんの餌付けでした。飛来数は年々増え、90 羽でマックスとなりました。どうやらこれが滝湖という環境が支えることができる最大数のようです。ここでは昨年からの餌付けをやめました。岩淵さんが高齢になったためと餌が安定的に供給されなくなってきたからです。

しかし、今になって、かわいそう、人間の身勝手、できないなら最初から餌付けるべきでなかったなどの批判を耳にします。その根本には、ハクチョウは保護すべきという固定観念があるようです。餌も与えられずに、土を掘り返しているハクチョウはきつと腹ぺこに違いない、パンや古米をやったら栄養もあって喜ぶのにといった気持ちがあります。

でも、待ってください。確かにハクチョウの餌付けはしましたが、それはハクチョウがかわいそうというより、ここをハクチョウの越冬地にしてみんなに楽しんでもらいたいとの願いでした。いま、その夢は達成しています。

ハクチョウは、ニワトリやアヒルのような飼い鳥ではありません。秋、繁殖を終えてシベリアから飛来し、春になれば帰っていきりっぱな野鳥です。土に首を突っ込んでいるのはお腹がすいて見境もなくなっているのではなく、ツルヨシやススキなどの根を食べているのです。それがかれら本来の食性です。只見に定着して、野生本来の生活を送っています。けっしてひもじくかわいそうな状況ではありません。そして、食べものがなくなれば、新しい食べものがある別の場所へ移動します。これがハクチョウ本来の自然のすがたです。このことをもっと地域の人々に知ってもらわなければなりません。みなさんからも積極的に説明をお願いします。(勇)

■勇の野鳥観察 (学ぶ会 ML より)

* 10/16 滝湖にコハクチョウ 16 羽飛来。

今年は一月上旬早い。人がエサをやらなくても滝湖で 80 羽ものハクチョウが越冬したことは証明済み。十島下流の中洲にいます。ほとんどのハクチョウ飛来地が人間のエサに頼っているなかで、人を頼らず、自然界のエサを食べて越冬する、野生のハクチョウは県内では貴重です。

* 11/27 滝湖でヒドリガモ多し。こんなに多いのははじめて。只見湖でオオバン、ホオジロガモ。常連ですが、県内ではまれ。

* 11/27 滝湖のハクチョウは現在、43 羽。すべてコハクチョウです。おそらく 3~4 家族で、灰色の幼鳥が多いようです。ということは、シベリアでの繁殖率がよい

ということ。エサをやらなくても、ねっかさすけねエ。

* 12/9 有賀先生と只見湖へ鳥見。カンムリカイツブリが 2 羽、オオバンが 13 羽。やったあと行って見てきました。ほかに、ウミネコの成鳥 3 羽がゴミ取り用の浮きの上で休憩中。ここでもヒドリガモが増えています。

* 12/10 滝湖のハクチョウは、現在 76 羽。中洲でツルヨシやススキの根を食べています。今年も順調です。

* 12/24 滝湖で、両翼が細長い大きな鳥が飛ぶのを発見。もしかしてオオミズナギドリ!? 飛べないで保護されたことはあるけど、飛んでいるのははじめて。追っかけたかったけど、ガイド中で断念。

■トピックス

- * (10/14) 鈴木和次郎軍団(失礼)と沼ノ平に行ってきました。ヤマブドウの葉から蛾のような物体が飛び出しました。近くのシダに止まったのを見たら、な、なんとコテングコウモリ。ダンゴ鼻と薄茶色の体が印象的。葉がくれの術をつかう絶滅危惧種です。(勇)
- * 11月3日に山内孝之・(鈴木) 聖子両名の結婚披露宴が湯ら里で行なわれました。コウモリ・フェスタで作成したコウモリTシャツ・携帯ストラップの在庫をお買上いただきましたので、お礼も込めてご報告します。山内孝之さんも会員になられたので、これから二人仲良く活躍されることを期待します。(和)



(コテングコウモリ／撮影・勇)

■事務局からお知らせ

只今《只見の自然に学ぶ会》会員メーリングリストの引越し中です。これまでは freeml のメーリングリストを利用していました。新しいメーリングリストは、Infoseek メーリングリストサービスから配信されます。引越しを完了するためには、会員(サポート会員も含む)の方々にご自分で登録手続きをしていただかなければなりません。

すでに登録を完了されている方には、新しいメーリングリストからメールが届いている([manabu:00001]という番号が件名に入ります)はずです。もしまだこういう件名のあるメールが届いていない方、今後も学ぶ会のメーリングリストに参加したい方がいらっしゃいましたら、お手数をおかけしますが登録手続きをお願いします。

また、やり方がわからないなどご質問がありましたら、事務局 佐藤潤子 manabu@mnx.jp へお尋ねください。

なお、これまでの freeml のメーリングリストは不都合な点が多く、現在は受信できない方や、投稿してもすぐには配信されなかったりしています。これが引越しを実施した理由です。

今後、新規に投稿される際は、新しい方のinfoseekメーリングリストサービスへご投稿ください。投稿アドレスは manabu@ml.infoseek.co.jp です。

3月頃までは移行過渡期として双方のメーリングリストを併用しますが、以後は infoseek に一本化しますので、できるだけ早く、infoseek への登録を済ませてくださいますようお願いいたします。

(事務局 佐藤潤子)

■活動報告

- * 禮次郎ワールド合宿／10月6日(土)～7日(日)に会員・月田禮次郎さんの「月田農園」に押しかけて遊ばせていただきました。トトロ窯・糠釜・丸太コンロ・獣の頭蓋骨・冬虫夏草・石器・バットハウス・杉の木の手作りアルペンホルン・ヨグソミネバリ・栗拾い・楽しいお話いっぱい…。
- * 忘年会／12月8日(土) 会員・山岸フミ子さんの「民宿やすらぎ」で。福島や仙台、東京から

も参加いただき総勢 15 名、郷土料理をいただきながら丁々発止やり合いました。

■活動予定

- ・雪遊び&鍋／2月10日(日)入叶津(予定) 詳細は決まり次第 ML 等でご案内します。2/9(土)～2/10(日)の「只見ふるさと雪まつり」と合せて遊びに来てください。
- ・3月／ユビソヤナギ観察会(開花に合せ)
- ・5月／バードウォッチング・草花観察会

禮次郎ワールド



(農園の小屋ー合宿所)



(丸太のコンロと糠釜)



(水場)



(丸太の手製コンロ)



(トトロの窯)



(薪でデザインー自宅)

* ご案内 *

ガン・カモ・ハクチョウ類の カウント&観察会

1月12日(土) 午前9時30分ふるさと出発
滝湖から只見湖をまわり、お昼解散
オジロワシ、クマタカ出るか!
事前申込不要です

題字/本多見行

イラスト/新島孝司——ゆきつばき

■編集室から

明けましておめでとうございます。年末年始
1m以上積もった雪が、ここ数日の雨でなくなり
そうです。雪国只見は大丈夫か…。 (楓)